

## アトウモロック近況報告

アトウモロックは  
日々発展しています！

12月の滞在では、ゆっくりと確実に発展するアトウモロックを感じることができました。私たちは週1回土曜日の識字教室に参加後、母親クラブのプロジェクトで配布した豚の様子を見せていただきました。残念ながら3頭が死んだそうですが、2頭が妊娠・出産。そのうちの1頭の持ち主だったエレナさんは仔豚を売って馬を購入し、荷物運び用などに貸し出して利益を得ているそうです。また、自宅の一角をサリサリストアにしているので、馬の利益で商品を町から購入。「品数や在庫を増やすことができました」と語るエレナさんの満面の笑顔から、1頭の豚を上手にマネジメントすることが、どれだけの自信につながるのか知ることができました。

次はミリンダさんの畑です。2haの畑にジャガイモ12畝、ニンジン6畝、カモテ1畝、その他はトウモロコシを植えています。トウモロコシは時期をずらして植えているので、毎月のように何かしらの収穫があります。HANDSはジャガイモの苗購入の支援をしました。植えてから2ヶ月で収穫できるジャガイモは、涼しいアトウモロックの気候に合っているそうです。またミリンダさんの夫が働き者で、良く土を耕し、柔らかくふわふわして栄養を含んだ土に育てていることが収穫につながるのでしょう。今回は300kgの収穫を見込んでいるそうです。G. サントス市の市場で、1kgあたり25ペソで売れます。輸送費は1kgあたり80セタ(0.8ペリ)です。

またアトウモロックには、キブラワン村議会の支援で織物センターが設置されました。マロン、バンダナを織り、赤と紺色の民族衣装のブラウスに伝統柄を刺繍しています。”Gumabal Y Dad Libon” (Libonはピラーン語で女性)と名付けられたこのセンターでは、民族衣装を着用して仕事することが義務付けられています。受注生産のため恒常的に仕事があるかどうかは今後の鍵ですが、その日いた8名は、民族の誇りを持って織物と刺繍に励んでいます。

住民が力を付け、村議会と交渉していることを知って、誇らしい気持ちになりました。もちろんこれらのプロジェクトがうまくいき現金収入が増えたとしても、各家庭の子どもたち全員を高校まで学ばせることは難しい状況です。これからもゆっくりとアトウモロックを見守ってくださいますようお願いいたします。



ビピナさんのオス豚は4ヶ月。成長が楽しみ。



ミリンダさんと畑



収穫を待つジャガイモ



織物センターで働く若い女性。染め終わった綿糸を束にしている。伝統的なブラウスとティナラク織のスカートを着用。